

## 僕のじいちゃん

中学校二年

僕は常に後悔しないように行動している。朝は必ず、母が見送ってくれる。たとえ前の晩にけんかをした朝でも、元気よく「いってきます。」と言う。自分が知っている人を失うのが怖いからだと思う。それが最後のあいさつになっても後悔しないように。

つい最近、母方のじいちゃんが病気になってしまった。中学生になってから、勉強やら部活やらですっかりじいちゃん家にも行けなくなっていた。久しぶりに休みが取れたので、じいちゃん家に行ってみると、あのがたいのいいじいちゃんの体は、すっかりやせて細くなっていた。僕はこわくなった。笑いながら大量にお年玉をくれたあのじいちゃんが、優しい時もあれば、僕のためにしかってくれたじいちゃん、遠くに行ってしまうような気がしたから。僕はその日、久しぶりに会ったじいちゃんとたわいもない話をした。もし会話が途切れても居心地は悪くならなかった。

帰る時に、途中で買ったおみやげのまんじゅうを

置いて、その日は家に帰った。久しぶりに会えてうれしかったが、じいちゃんとあとどれくらい会うことができるのかと思うと、不安になった。だから、僕は後悔しないように、日々心がけていることが二つある。

一つ目は、自分が人と接する時の態度だ。自分のまわりの人が、いついなくなるかもわからないから、「ありがとう」や「ごめんなさい」「いってきます」を恥ずかしがらずにちゃんと言おうと思う。

二つ目は、何事にも失敗を恐れず、挑戦しようという心を持ち続けることだ。僕はビビリで挑戦する前に怖くなって、結局、逃げるのがほとんどだった。そして、いつも後悔ばかりしてきた。だから、そのときそのときを大事に、失敗を恐れず何事にも挑戦していきたいと思う。

僕のじいちゃんは、今は元気だけど、いついなくなるかわからない。だから、たくさん会って、たくさん話したい。「今」を大事にして、後悔しないように毎日を過ごしていきたいと思う。